

はじめに

今日の我が国の教育において、「生きる力」の育成が重要な課題となっています。「生きる力」をつけるとは、すなわち、自分で課題を見つける力、自ら学び考える力、意欲を持って活動し、よりよく問題を解決できる力を育成することです。その「生きる力」の核となる豊かな人間性の育成を担う柱として、道徳教育の充実が従来にも増して強く求められています。

平成27年7月、学習指導要領解説の一部改訂が行われました。「特別の教科 道徳編」において、「道徳科では、児童が日常の体験やその時の考え方や感じ方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の工夫をすることが大切」とされています。児童自身が受けた体験や児童が行った体験を道徳教育に生かし、「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して」というテーマで研究を行うことは、今日の教育的課題と深く関連づけられると考えます。

ところで、子どもたちが社会人として活躍するであろう10年後、20年後の社会は、大きく変化していることが予想されます。このような社会で、道徳の授業をはじめ、道徳と関連づけた体験活動・各教科等の授業の中で自分の生き方に関わることを学んだ子どもたちが、感性を豊かに働かせながら日常の行動により変化をもたらし、意欲を持って活動し、よりよく問題を解決できる力を育成することができればどんなに素晴らしいことでしょう。これからの道徳教育や道徳の授業の在り方について、今まで以上にこだわって研究してきたことに大きな喜びと意義を感じています。

結びに、本研究では昨年度の反省（道徳の授業では、資料から離れ「自分を振り返る過程」になると、うまく自分を見つめたり振り返ったりすることが苦手な児童が多い等）から、①体験を生かし自己を見つめさせる工夫 ②共に考える道徳の授業展開の工夫 ③成長を実感できる道徳の評価の工夫の3つの仮説を立て、検証していく実践的研究に取り組んで参りました。これまで試行錯誤の中から研究の方向性や児童が道徳的価値について主体的に考える手立てを模索してきたところではありますが、まだまだ十分ではありません。ここにまとめました論文につきましても、多くの気づきやご示唆をいただき、今後の本校研究の充実、指導方法等の工夫改善へつないでいきたいと考えております。ご指導よろしくお願ひします。

目 次

I	研究の概要	P 1
1	研究主題について	
	(1) 研究主題	
	(2) 主題設定の理由	
	(3) 研究主題の捉え方	
2	研究の内容	P 2
	(1) 研究の仮説	
	(2) 研究の視点と内容	
	(3) 研究の組織	
	(4) 研究計画	
	(5) 研究の構想	
II	研究の実際	
1	仮説1【体験を生かし自己を見つめさせる工夫】に関する研究	P 5
	(1) 体験活動・各教科等と道德の授業を関連させた指導計画の充実	
	(2) 自己を見つめさせる場の工夫	
2	仮説2【共に考える道德の授業展開の工夫】に関する研究	P 7
	(1) 共に考える道德の授業展開の工夫改善～学習過程基本型～	
	(2) 授業実践	
	ア 動作化や役割演技を効果的に取り入れた授業実践	～1・2年の取組～
	イ 体験を生かし、自分の事として考えさせる授業実践	～4・5年の取組～
	ウ 道德的価値に迫る発問を工夫した授業実践	～3・6年の取組～
	エ UDの視点を取り入れた授業実践	～特別支援学級の取組～
3	仮説3【成長を実感できる道德の評価の工夫】に関する研究	P 15
	(1) 児童の成長を記録する交換授業の実践～「道德の授業ふりかえりカード」～	
	(2) 道德ノートの効果的な活用方法	
	(3) 自分の成長を実感できる自己評価カードの活用	
	(4) 学校・家庭・地域をつなぐ評価の工夫	
III	研究の成果と課題	P 19

研究同人・参考文献

I 研究の概要

1 研究主題について

(1) 研究主題

いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して ～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～

(2) 主題設定の理由

ア 教育の今日的課題から

新学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」では、「考え、議論する道徳」へ質的転換が求められている。道徳教育の目標に「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」という文言がある。また、道徳科では、道徳的価値を観念的な理解で終わるのではなく、児童が道徳的価値に対し、実感を伴って理解できるようにすることが大切だと述べている。実感を伴わせるために大切なことは、児童自身の体験を生かし自己を見つめることであり、共に考えることで、自分の考えをより明確にすることができる。「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～」というテーマで研究を行うことは、教育の今日的課題と深く関連づけられるものである。

イ 学校の教育目標から

本校の教育目標は、「知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい児童の育成～かしこく、やさしく、元気よく～」である。これらは、生きて働く知識・技能の習得という確かな学力の習得、自他の命を大切にするという豊かな人間性の涵養、そして元気な心と体でやり抜くという健康・体力の育成、すなわち「新しい時代に必要となる資質・能力」の育成と大きく重なるものと捉えることができる。これらは次期学習指導要領に示す方向性に沿ったものである。研究主題が目指す「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～」は、すべての教育活動の基盤となるものであり、本校教育目標の具現化へつながる。

ウ 本校の道徳教育の実態から

本校が所在する御船町は、熊本地震によって大きな被害を受けた地域である。地震後、たくさんの人たちの支援のもと、少しずつ日常生活が戻ってきているが、今もなお仮設住宅等から通っている児童がいるのも現状である。地震後の貴重な体験を通して、自己を見つめ、命の大切さ、家族の温かさ、支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを高めることができた。本校の道徳に関する児童の実態として次のようなことが挙げられる。

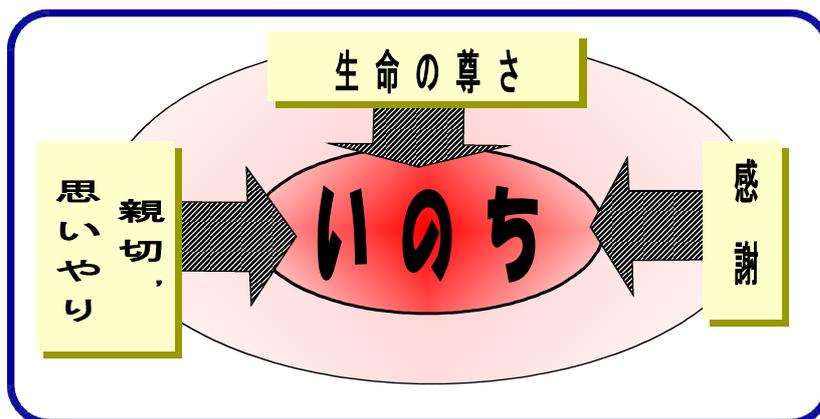
- ・地震を体験して、家族の繋がりや支え合いの大切さ、命の尊さ、自然現象の驚異等を肌で感じており、道徳の授業や集会等で振り返ることができた。
- ・児童が主体的に発言し、共に意見を出し合い道徳的価値について、深く考えるという点がありできていない。また道徳の授業では、〇〇したいと道徳的心情が高まっても、なかなか行動に移せていないと児童自身が実感している。

(3) 研究主題の捉え方

ア 「いのち輝く」について

いのちとは、「生命が生きていくための源となる力」である。生命尊重そのものが道徳性全体の基盤的な価値であり、全ての内容項目と関連があるといえる。全ての道徳性は「いのち」が大切にされてはじめて成り立つものだからである。

本校では、児童が「いのち」の本質を多面的に見つめることができるよう、下記のように関連する内容項目を整理した。「いのち輝く」とは、児童一人一人が下記の道徳的価値の大切さを理解し、人間として生きる喜びを感じながらよりよく生きようとしている状態を指している。



【資料1 「いのち輝く」につながる道徳的価値】

イ 自他を『つなぐ』道徳教育を目指して

自他を『つなぐ』とは、上記に示した「いのち」を輝かせるため、道徳教育を通して、自己と他者の「人・もの・こと」との関わりを意識した指導を指している。人（友達・家族・地域の人等）、もの（学校・地域の文化財・地域の芸術作品等）、こと（学校行事・お祭り等）と、自己との関わりを意識することで、新学習指導要領に示された児童が道徳的価値を自己との関わりで考えることができるような「考え、議論する道徳」が展開できるだろう。

2 研究の内容

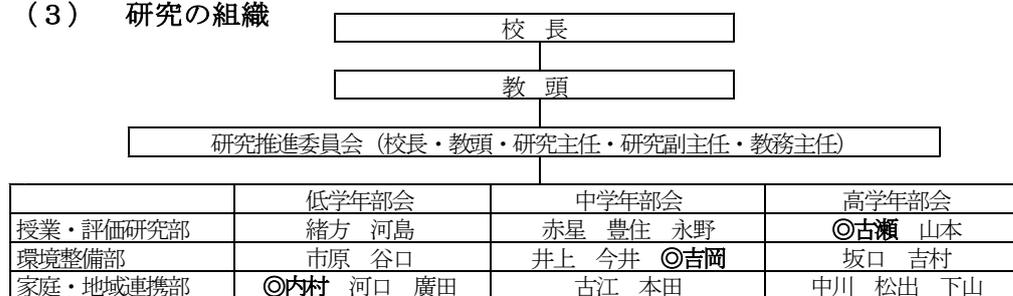
(1) 研究の仮説

- | | |
|------------|--------------------|
| 仮説1 | 体験を生かし、自己を見つめさせる工夫 |
| 仮説2 | 共に考える道徳の授業展開の工夫 |
| 仮説3 | 成長を実感できる道徳の評価の工夫 |

(2) 研究の視点と内容

	仮 説	視 点	内 容
1	体験を生かし、自己を見つめさせる工夫	①体験活動・各教科等と道德の授業を関連させた指導計画の充実 ②自己を見つめさせる場の工夫	・道德教育年間計画別葉の作成と活用 ・写真の活用 ・道德コーナー・成長の足跡
2	共に考える道德の授業展開の工夫	①共に考える道德の授業展開の工夫改善 ②発達段階に応じた対話的な学びの工夫	・みふねっこの学習過程 ・効果的な動作化・役割演技 ・体験を生かした授業展開 ・道德的価値に迫る発問の工夫
3	成長を実感できる道德の評価の工夫	①評価の時や場の設定や工夫 ②道德ノートや自己評価カード等の効果的な活用方法	・交換授業の実践 ・道德ノート・評価カードの活用 ・通知表所見の活用 ・学校・家庭・地域をつなぐ取組

(3) 研究の組織



(4) 研究計画

研究経過と研究方法				
4	1 9	テーマ研 (テーマ・サブテーマ・年間計画・研究発表授業者提案)	全体	赤星
5	3 1	道德大研事後研 (中：赤星)・道德理論研	全体	赤星
6	7	専門部会年間計画・作業	専門部会	部会
	1 4	道德大研事前研 (中：豊住)	中学年	中学年
	2 1	道德中研事後研 (中：豊住) ※講師：大江教頭先生	中学年	中学年
	2 8	「生きる力」公開授業事前研 (部会) ①	低中高	低中高
7	5	★司会者・協力者との事前研 (「生きる力」公開授業事前研②)	低中高	低中高
	2 1	人権教育レポート研	全体	井上
8	2	「生きる力」公開授業事前研模擬授業・奇数学年 (部会) ③	低中高	低中高
	9	「生きる力」公開授業事前研模擬授業・偶数学年 (部会) ④	低中高	低中高
	2 1	専門部会・研究紀要チェック	専門部会	専門部会
9	6	「生きる力」公開授業事前研 (部会) ⑤	低中高	低中高
	1 3	公開授業事前研 (部会) →別学級で公開授業⑥	低中高	低中高
	2 0	★司会者・協力者との打ち合わせ事前研 (「生きる力」公開授業事前研⑦)	低中高	低中高
	2 7	研究発表の当日の動き確認等	全体	全体
1 0	4	専門部会作業	専門部会	専門部会
	1 8	研究発表最終打ち合わせ・準備	全体	全体
	2 5	「生きる力を育む」研究指定校 (心の教育) 研究発表	全体	全体
1 2	2 0	論文提案・人権教育研修	全体	赤星・井上
1	1 0	道德大研事前研 (低：河口)	全体	低学年
	1 7	道德大研事後研 (低：河口)	全体	低学年
	2 4	特別支援学級授業研・特別支援に関する研修	全体	市原他
	3 1	理科授業事後研 (理科専科：古江)	全体	赤星
2	1 4	次年度道德年間計画作成について	全体	赤星
	2 1	テーマ研反省と次年度への志向	全体	赤星

【学校教育目標】

知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい児童の育成
～かしこく、やさしく、元気よく～

【研究主題】

いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して
～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～

いのち輝く



生命の尊さ

思いやり
親切

いのち

感謝

道徳の授業改善

自分と人・ものこと

仮説1

体験を生かし、自己を見つめさせる工夫

- ① 体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導計画の充実
- ② 自己を見つめさせる場の工夫

仮説2

共に考える道徳の授業展開の工夫

- ① 共に考える道徳の授業展開の工夫改善
- ② 発達段階に応じた対話的な学びの工夫

仮説3

成長を実感できる道徳の評価の工夫

- ① 評価の時や場の設定や工夫
- ② 道徳ノートや自己評価カード等の効果的な活用方法

自分と人・ものこと

【言語活動の充実】

業間活動の充実・道徳コーナーの設置・道徳教育通信等

【児童の実態】

II 研究の実際

1 仮説1【体験を生かし自己を見つめさせる工夫】に関する研究

(1) 体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導計画の充実

	御船川探検隊 御船川クリーン作戦(総合)		
誠実 (思いやり の尊重)	見えない名札 (学校生活・集団生活の充実) チームアップの球根 (勤労・公共) ふるさとのたから清和文楽 (伝統文化の尊重) イモリが元気だと雨がふる (希望と勇氣)	けんじのわすれもの (規則の尊重) ペンダラダンスから来たシャボン君 (国際理解) 人間愛の金メダル (生命の尊重)	ハクチョウの湖・瓢湖 (自然愛護) なんとなく (友情・信頼)
	ふるさとの室 清和文楽(伝統)		
	学級集会の計画をたてよう (友情・信頼) 係活動の見直しをしよう (親切・思いやり)	学級をさらによくする方法について 考えよう よりよい学校生活 学級集会の計画を立てよう (友情・信頼)	友達のがんばっているところ を褒めよう (友情・信頼)
	本の読み方を考えよう (希望と勇氣)	学級や学校のきまりについて考え よう (規則の尊重)	2学期の反省と冬休みの 準備 (節度・節制)
		学習発表会に向けてがんばろう よりよい学校生活	
勇気	「ごんぎつね」 (正直・誠実) (親切・思いやり) (生命の尊重) 「秋の風景」 (自然愛護) (国際理解)	「慣用句」 (国際理解) 「クラブ活動リポート」を作ろう (公正・公平) よりよい学校生活	「短歌・俳句に親しもう」 (国際理解) 「アタナシの木」 (友情・信頼) (感動・異郷の念)
	「ごんぎつね」 (節度・節制) (感謝) (規則の尊重) 谷に囲まれた大地に水を引く (感謝)	谷に囲まれた大地に水を引く (感謝) 伝統文化の尊重	谷に囲まれた大地に水を 引く (感謝) 伝統文化の尊重

【資料2 道徳教育全体計画別葉】

体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導をすることは、道徳的価値の自覚を深める上で効果的である。本校では「道徳教育全体計画別葉」【資料2】の有効活用を力を入れた。昨年度から「体験活動・各教科等と道徳教育のつながり」を再検討する時間と場を確保した。チェックを入れることで、改めてどの体験活動・各教科等と道徳の授業が関連づけられるのか考えることができた。また、全学年の道徳教育年間計画別葉を職員室に掲示し、授業が終わり次第チェックをするようにした。常に年間計画を意識するため、道徳の授業、年間35時間の確保に役立った。

4学年の別葉

「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」で関連づけられる学習内容をつないでいる。見学旅行、道徳の授業「ふるさとのたから清和文楽」、社会の「谷に囲まれた大地に水を引く」等を関連づけた。



【資料3 別葉のチェックをする職員】

【別葉の活用ポイント】

- 1 道徳教育全体計画別葉を作成後、学年部で話し合い、同じ道徳的価値で関連付けられる体験活動・各教科等と道徳の授業を線をつなぐ。
→関連を意識した指導が可能に！
- 2 全学級の道徳教育全体計画別葉を職員室に貼り、実践を担当がチェックする。
→常に別葉を見ることができる！
→35時間確実に道徳の実践ができる！

(2) 自己を見つめさせる場の工夫

各学習指導要領には、「道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人が自分との関わりで捉えることが重要である。」とある。次のような工夫をすることで、道徳の授業や、日常生活で自分の経験や考えたことを振り返り、自己を見つめることが

できた。

ア 授業～写真の活用～



自己を見つめさせる際、児童の写真を活用することが多かった。写真を活用することで、振り返りが難しい児童への手立てとなった。

2学年「モムンとヘーテ」（親切、思いやり）の授業では、ねりあげる過程で写真を活用。ころんで怪我した友達を優しく保健室に連れて行く児童の姿を見て、自分にも同じようなことはないか振り返ることができた。

イ 道徳コーナー



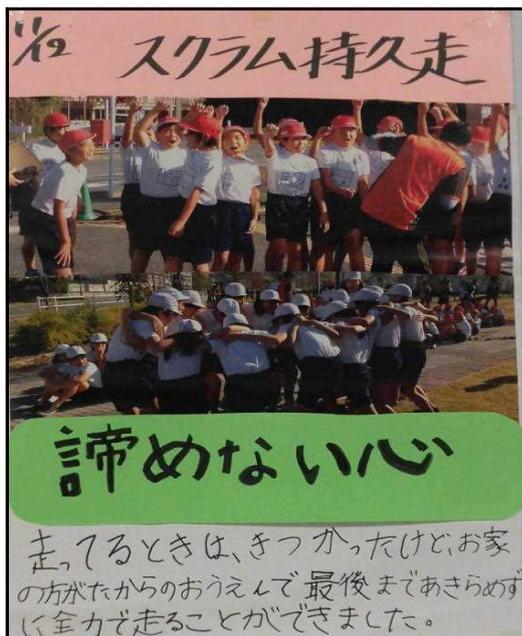
【資料5 1年生の道徳コーナー】

道徳の授業で「学んだ教材名」と「学んだ心」などを書き、全教室に掲示するようにした。学級で様々な出来事が起きた際など、繰り返し振り返ることができた。



【資料6 3年生の道徳コーナー】

ウ 成長の足跡



児童が、自分の成長を自覚できるように、体験活動（行事）・各教科等で学んだことなどを、児童の言葉と写真で残した。自分たちの成長が年間を通して視覚化できた。

6年生が「持久走大会」であきらめずに挑戦したこと記録したカードである。自分たちで目標を持ち、頑張ったことを記録に残し、教室に掲示した。自分たちの頑張りや成長を常に振り返ることができる1枚である。

【資料7 6年生の成長の足跡】

